

企業ニュース **ダイセキ**

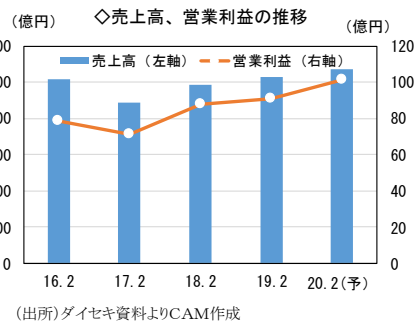
(東証1部：9793) <http://www.daiseki.co.jp/>

作成者：奥村義弘

産業廃棄物処理の大手

1958年設立。油脂精製業から、石油販売、再生油精製事業へと拡大、1970年代以降は産業廃棄物処理の研究・開発に注力し、中でも再資源化に着目してきた。現在では、産業廃棄物処理の大手として、廃液、廃油の中間処理から、再資源化までの一貫処理に強みを持つ。子会社には、土壤汚染対策のダイセキ環境ソリューション

(1712)、廃鉛バッテリーのダイセキMCR、タンク貯蔵装置の洗浄工事のシステム機工などを有し、多角化を図っている。2030年度の数値目標に、連結売上高1,500億円、営業利益250億円、ROE15%を設定し、アジアNO.1のリサイクル企業を目指している。



20.2期は子会社群の収益も改善へ

19.2期の連結業績は、売上高が513億円、前期比4%増、営業利益が91億円、同4%増。2期連続で営業利益は最高益を更新した。ダイセキ単体が売上高321億円、同12%増、営業利益が83億円、同16%増と好調で業績をけん引した。廃棄物の受け入れ数量が増加、リサイクル燃料の販売が好調であった。受注単価の下落で採算が悪化したダイセキ環境ソリューションや、鉛価格の下落の影響を受けたダイセキMCRの不振を補った。

20.2期の会社計画は、売上高が535億円、前期比4%増、営業利益が101億円、同11%増。単体は廃棄物を委託する顧客の増加で、廃液処理の数量増が見込まれる。販売の中心となる再生重油の需要が堅調、補助燃料の需要も石炭の代替燃料としてセメント業界などを中心に高まっている。前期不振のダイセキ環境ソリューションも大型投資が一服する一方、処理能力が拡大、前下期より価格も安定しており採算が改善傾向を示している。また単体と連携し、製造業の工場への営業を強化しており、土壤汚染の処理数量も増加が見込めよう。20.2期に総額108億円の投資計画を公表しており、関西エリアで80億円をかけて土地を取得するなど処理能力拡大に向けた前向きな投資が主な内訳で、将来の利益貢献につながろう。

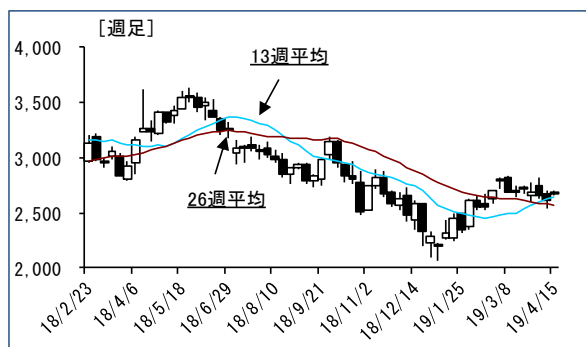
【株価動向・投資判断】

企業の生産活動や原油・鉛価格などが業績変動要因となる。今期は単体の堅調な動きに加え、子会社群の収益改善が貢献しよう。安定した業績を評価する動きが強まろう。

<9793 ダイセキ 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.2	49,185 (11)	8,777 (23)	8,914 (23)	5,833 (41)	136.5	記40.00
19.2	51,313 (4)	9,107 (4)	9,199 (3)	6,110 (5)	142.9	46.00
20.2 予	53,500 (4)	10,100 (11)	10,200 (11)	6,700 (10)	156.7	46.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2019/4/15)	2,664 円
年初来高値(高値日)	2,835 円(19/3/5)
同 安値(安値日)	2,070 円(19/1/4)
予想P E R(20.2予)	17.0 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,521.0 円
P B R	1.75 倍
予想配当利回り	1.73 %
(1株当たり配当金46.00円)	
ROE(19.2)	9.7 %
発行済み株式数	4,300 万株